

静岡市のネイチャーポジティブ(自然再興)について

資料12

静岡市は、ネイチャーポジティブを社会の共働・共創により推進し、自然環境をより豊かにします。

1 静岡市がネイチャーポジティブを推進する理由

静岡市は南アルプスから駿河湾に至るまでの世界に誇る豊かな自然を有しており、古くから自然の恵みが市民の生活を支えてきました。例えば1本の樹木でも、二酸化炭素を吸収し、水を蓄え、土砂災害を防ぐだけでなく、多くの生きもののすみかになっています。こうした命のつながりが人々の暮らしを支えています。

静岡市域の約76%を占める森林は、水や空気を守り、防災や農林水産業、観光等市民生活と深く関わっています。

しかし…

近年の地球温暖化等により自然は急速に荒廃しています。これまでの延長上の取組ではこのことは止められず、市民生活にも影響を及ぼしかねません。

また、南アルプスは希少な動植物が生息する世界的な自然の宝庫ですが、リニア中央新幹線建設事業などによる生態系への影響が懸念されています。

そのため静岡市は、すでに損なわれた自然を保全するだけでなく、より豊かにしていくというネイチャーポジティブ(自然再興)を推進します。



気候変動 森林の荒廃 里地里山の荒廃 海洋環境の悪化 生きものの減少

2 静岡市の現状と課題

① 南アルプスユネスコエコパーク



ニホンジカの増加による高山植物の食害に伴うお花畑の消失。リニア中央新幹線建設事業による水資源・生態系への影響の懸念。

② 森林(市域の約76%)



森林の管理不足により、二酸化炭素吸収量や水源かん養機能の低下、土砂災害リスクが増大。

③ 里地里山・市街地



野生動物の市街地への出現による市民生活への影響や農作物の被害。管理不足の竹林が引き起こす土砂災害などの不安。

④ 海洋(駿河湾)



海水温の上昇に伴う磯焼けなどによる水産資源への影響。

静岡市はこれらの問題に対し、自然環境保全の取組を行っていますが、財源や担い手の不足により、課題の解決には至っていません。

3 静岡市の課題を解決するために

多くの方に自然と日常生活が深くかかわっていることを知っていただき、これまでの保全中心の活動に加え、積極的に自然を回復させ、より豊かにしていく活動が必要です

- より多くの資金や担い手を確保する必要があります。
- ネイチャーポジティブの取組への理解と共感の輪を広げ、共働・共創していく必要があります。

そのために

静岡市における自然環境の現状と課題を把握し、どのように取組を進めれば、ネイチャーポジティブにつながるのか、わかりやすく伝え、共感を得ることが必要です。

そこで

OECD(経済開発協力機構)と共働して、世界の先進事例を研究しながら、静岡市の自然を可視化するための指標の策定、現状の取組を評価し、見直しを行うための提言を受けます。

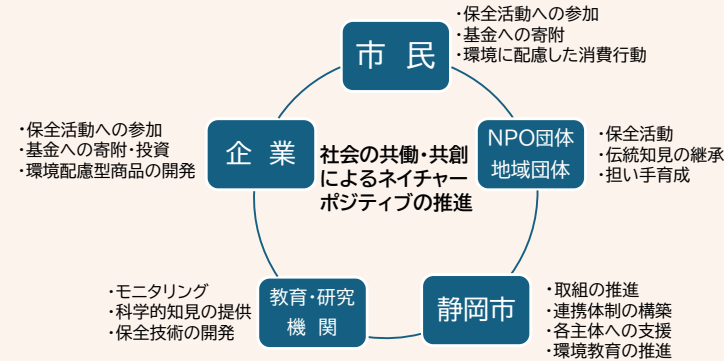
OECDとの共働で得られる効果

- 先進的な知見の共有
- 取組の信頼性の向上
- 取組に対する投資及び融資の増加
- 取組を検証し・よりよいものに改善
- 取組が世界に発信され、静岡市の魅力・ブランド価値が向上

【OECDとは】
世界38か国が加盟する国際機関でこれまで20年間にわたり、自然の保全や持続的な開発を進めていくための調査分析の実績があります。

4 社会の共働・共創によるネイチャーポジティブの推進

ネイチャーポジティブは、市民、企業、NPO等、教育研究機関、行政がそれぞれの役割を担い、共働・共創により推進することが必要です。



① 南アルプスユネスコエコパーク

- 高山植物の保全・再生
- ヤマトイワナ・ライチョウ保護
- 大井川源流域の水資源の保全

共働パートナー

- 南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会
- 南アルプスパートナーシップ賛同者
- 各種団体・地権者等
- 井川地域住民(自然域共生主義による定住者)

財源

南アルプス保全活用基金
豊かな環境を保全活用し、未来へつなぐ基金

③ 里地里山・市街地

- 放任竹林対策
- 都市空間、眺望の改善
- 外来種対策

共働パートナー

- 里山保全ボランティア団体
- 竹材の利活用を行う企業・市民
- 外来種駆除を行う市民団体
- 関連大学
- 地域住民

財源

森林環境譲与税
豊かな環境を保全活用し、未来へつなぐ基金

② 森林

- 人工林の適正管理
- 自然林の復元
- 森林クレジット

共働パートナー

- オクシズ地域住民(自然域共生主義による定住者)
- 森林所有者
- 森林組合、林業従事者
- 企業

財源

森林環境基金・森林環境譲与税
豊かな環境を保全活用し、未来へつなぐ基金

④ 海洋(駿河湾)

- 藻場の再生
- 沿岸未利用地の荒廃対策

共働パートナー

- 関連大学
- 駿河湾海洋研究開発事業化コンソーシアム
- MAOI機構
- 地域住民
- 漁業協同組合

財源

美しく豊かな駿河湾保全活用基金
豊かな環境を保全活用し、未来へつなぐ基金

(仮) ネイチャーポジティブ推進会議

事業の推進にあたっては、各分野ごと共働パートナーとともに実施する。
(仮)ネイチャーポジティブ推進会議では、全体の進捗状況のとりまとめ、指標に対する評価、課題などを共有することで、各分野での事業の改善を図る。

5 ネイチャーポジティブ推進による自然環境が豊かなまちの実現

① 災害に強く、安心して暮らせる静岡市



森林や里地里山の荒廃を回復させることで、洪水・土砂災害や野生動物による農作物への被害などを軽減します。

② 市民の健康で快適な生活環境



市街地の緑や水辺を増やし、暑さの緩和や空気のきれいさ、心のゆとりにつなげます。

③ 地域産業活性化と雇用の創出



水資源などの自然の恵みを守ることで、農林水産業の持続的な発展や観光への活用、新たなビジネスによる雇用の創出に貢献します。

④ 次世代に豊かな自然を引き継ぐ



南アルプスユネスコエコパークをはじめとした自然資産やその恵みを未来の子どもたちへつなぎます。

⑤ 静岡市の魅力・ブランド価値の向上



静岡市の取組を世界に発信することで、国際的な評価を高め、企業や投資家、人をひきつけます。